

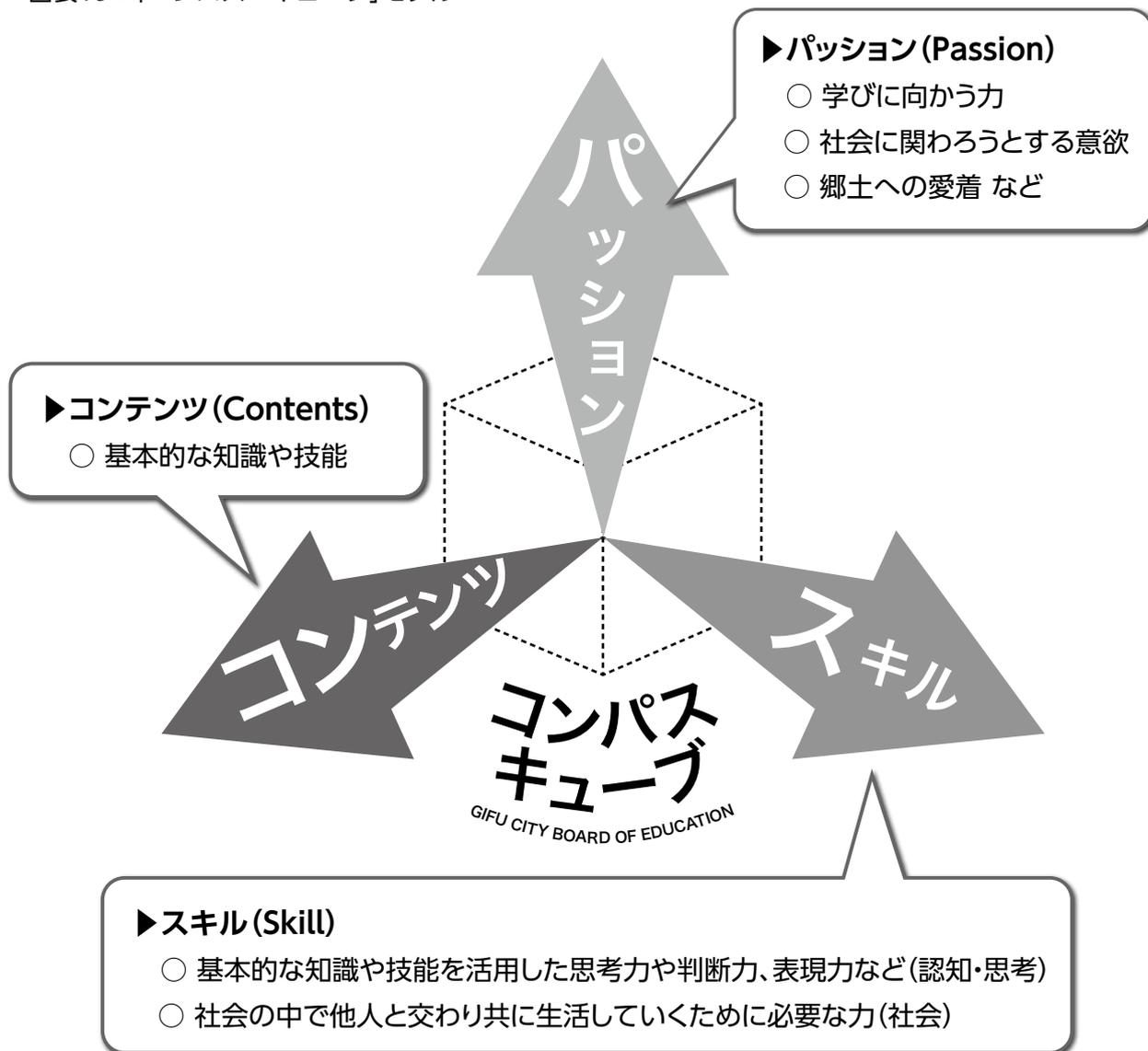
基本的方向性 1

全ての子どもたちに将来社会を生きる力を培う教育

岐阜市では、教育で子どもたちに培うべき力について独自の「コンパス・キューブ」モデルを平成27年度に作成し、以来活用してきました。

これは、コンテンツ(基本的な知識や技能)、パッション(学びに向かう力など)、スキル(思考力や表現力など)を立方体の3つの軸として捉え、従来の教育において重視してきたコンテンツだけでなく、3つの軸をバランスよく伸ばすことにより、変化の激しい時代においても自ら考え、主体的に行動し、未来を切り拓いていける人を育むことを示しています。

■ 図表19：「コンパス・キューブ」モデル



基本的方向性 1 全ての子どもたちに将来社会を生きる力を培う教育

こうした力の育成においては、教科の学びを基本とした教育活動全体において、地域や社会、郷土の資源を有効に活用しながら、バランスのとれたカリキュラムの作成と実施を目指していくことが重要です。

岐阜市は、学校における多様な教育を保障するため、その基礎となる人的・物的な環境整備を推進するなどして、全ての子どもたちに将来社会を生きる力を培う教育を進めます。

(基本的方向性1の各目標)

目 標	ページ番号
目標1 確かな学力の育成	P28
目標2 豊かな心、健やかな体の育成	P29
目標3 グローバル社会を生きる力の伸長	P30
目標4 地域や家庭とともに歩む教育の推進	P31
目標5 幼児教育の推進	P32
目標6 学校マネジメント力を発揮できる体制の構築	P33
目標7 学校環境の整備	P34
目標8 放課後の居場所の確保と質の向上	P35

目標1 確かな学力の育成

人生100年時代を迎えた現代社会においては、生涯にわたって学び続ける姿勢が求められます。その基礎となる学校教育では、子どもたち自身が学ぶことの目的や意義を理解するための工夫を凝らしたり、機会を設けたりすることが必要です。

基本的な知識や技能(コンテンツ)を身につけるとともに理解の質を向上させ、学びに向かう力(パッション)や思考力・創造力(スキル)などを含む、確かな学力の育成を図ります。

(具体的な取組み)

取組み名	資料編参照	複数の目標に掲載
学力向上ぎふプラン	P50-1	
「主体的・対話的な学びの在り方」推進事業	P50-2	
コンパス・カリキュラムの改善・活用の推進	P50-3	
土曜日等の教育活動	P50-4	
理数教育、ICT教育・情報教育、英語教育、キャリア教育、プログラミング教育	P50-5～ P52-14	目標3

目標2 豊かな心、健やかな体の育成

学校は、家庭環境などの異なる様々な子どもが集まっており、子どもたちが、学級や班での活動や異学年との交流の中で他者との考え方の違いに直面した際に、対話や議論の中で合意を形成する体験を通して成長する機会にあふれた環境です。

教育の基盤である学級づくりなどを通じて、子どもが他者との関わりの中で互いにひびきあい、個性に優劣がないことを認識し、仲間とともに生きる自分への自信を持てるように育むとともに、コミュニケーションや感性・情緒、知的活動などの基盤となる言語活動や体験活動を充実させる必要があります。

また、生涯にわたって継続して運動に親しむ習慣を身に付けさせるため、学校体育の充実や地域と連携した学校部活動を推進していきます。子どもが、これからの変化の激しい時代を生き、生涯にわたって継続して学んでいけるよう、豊かな心、健やかな体の育成を図ります。

(具体的な取組み)

取組み名	資料編参照	複数の目標に掲載
学校図書館の機能向上	P53-15	
学校部活動の充実	P53-16・17	
少年自然の家	P53-18	
食育	P53-19	
小児生活習慣病予防対策	P53-20	
法教育	P53-21	

目標3 グローバル社会を生きる力の伸長

人や物、情報が旧来の地域や国家の枠を超えて地球規模に拡大し、社会生活に様々な影響を及ぼすこととなるグローバル社会の到来が言われています。子どもたちがこうした時代をたくましく生きぬいていくため、企業等の知見も幅広く得ながら、各種取組みの立案・実施・改善を図ります。

国に先駆けて教科化を進めた英語教育については、今後ますます進展する国際化社会におけるコミュニケーションツールとして、依然重要な位置を占めます。小中学校における9年間の学びを見通した指導方法の改善を推進します。

また、人工知能(AI)の進化をチャンスとして捉え、人間本来の知恵と能力を磨き、発揮していくことが重要です。既にあるものを増やしたり、大きくしたりすることは人工知能(AI)の仕事となり、無から有を生む、すなわちゼロから1をつくることのできる創造力にあふれた人材が必要となります。そうした人材育成のためのツールの一つとして、プログラミングを効果的に活用するなどして、グローバル社会を生きる力の伸長を図ります。

(具体的な取組み)

取組み名	資料編参照	複数の目標に掲載
理数教育	P50-5	目標1
ICT教育・情報教育	P51-6・7	目標1
英語教育	P51-8～ P52-10	目標1
キャリア教育	P52-11～13	目標1・4
プログラミング教育	P52-14	目標1・9

(用語の解説)

- プログラミング：新たな学習指導要領(小学校学習指導要領解説)では、子どもたちが将来どのような職業に就くとしても時代を越えて普遍的に求められる力としてプログラミング的思考(自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力)が位置付けられています。

目標4 地域や家庭とともに歩む教育の推進

変化の激しい社会が到来する中で、これからの社会の担い手として育てていく子ども一人ひとりが、自分の力を発揮することと、自己実現の喜びを一体として捉えられるようになることで、状況に応じて自ら考え行動する主体性を育み、社会に出てからも、社会と前向きに関わりながら、学び続けていく人生を歩むことができます。

そのために、学校での学びと社会との接続を意識するとともに、子どもたちの接する大人や社会が狭い範囲に限られることのないよう、学校教育が学校の中だけで完結するものではないことを念頭に置く必要があります。コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)は、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる有効な仕組みです。

また、家庭教育は全ての教育の出発点であり、子どもが基本的な生活習慣や生活能力、他人に対する思いやり、社会的なマナーなどを身に付ける上で重要な役割を果たします。このような子どもの姿勢を育むために重要な位置を占める幼児期の教育において、家庭への情報提供を行うなどの子育て支援を進めるとともに、PTA連合会や青少年育成市民会議、子ども会育成連合会などとも連携しながら、地域や家庭とともに歩む教育の推進を図ります。

(具体的な取組み)

取組み名	資料編参照	複数の目標に掲載
コミュニティ・スクール	P54-22	
家庭教育学級	P54-23	
のびのび育てぎふっ子	P54-24	目標5
家庭・地域と連携した防災教育推進事業	P54-25	目標7
スーパーシニア“ぎふっ子応援”事業	P55-26	目標15
キャリア教育	P52-11~13	目標1・3

目標5 幼児教育の推進

幼児期は、心情・意欲・態度・基本的生活習慣など、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる重要な時期です。幼児は生活や遊びを通して、情緒的・知的な発達や社会性を育み、人間として社会の一員として生きるための基礎を獲得していきます。

岐阜市は、平成29年度末現在、2つの幼稚園を設置しています。加納、岐阜東幼稚園を拠点に、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を明確にしながら、小学校への円滑な接続を図るための研究や、その成果を周知することにより、幼児教育の推進を図ります。

(具体的な取組み)

取組み名	資料編参照	複数の目標に掲載
のびのび育てぎふっ子	P54-24	目標4
幼保小連携	P55-27	

■ 図表20：のびのび育てぎふっ子

図表20は「家庭で大切にしたい子育てのポイント～心豊かでたくましい子～」をテーマにしたリーフレットです。幼児期に育てたい力として、4つの主要なカテゴリーが示されています。

- 自分ごとを自分でする力**
 - 睡眠：早寝早起きをする。
 - 食事：食べる喜びを知り、楽しく食事する。
 - 排泄：排泄の習慣を身に付ける。
 - 清潔：体を清潔にする気持ち良さを伝える。
 - 着脱：自分で衣服の着脱をする。
 - 外遊び・体作り：遠くまで外に出て、十分に体を動かして遊ぶ。
 - 危険回避：安全な遊び方・交通ルールが分かる。次を行って行動する。
 - 物の扱い・整理整頓：物を大切に扱う。
- 人とかかわる力**
 - 言葉のかかわり：言葉をかけながらスキンシップをしよう。
 - 意思のかかわり：家族や身近な大人から愛情を受け、安心して遊べたい気持ちをもつ。遊びを通して気持ちを伝えよう。
 - 善悪のかかわり：善いことと自分の言葉で表現しよう。
 - 善悪のかかわり：家族や身近な大人から愛情を受け、安心して遊べたい気持ちをもつ。遊びを通して気持ちを伝えよう。
 - 善悪のかかわり：善いことと自分の言葉で表現しよう。
- 身近なものや出来事がかかわる力**
 - 自然のかかわり：自然の中での遊びを通して、自然の恵みや変化を感じよう。
 - 社会のかかわり：身近な出来事や生活の様子に興味を持ち、生活を実感しよう。
 - 社会のかかわり：身近な出来事や生活の様子に興味を持ち、生活を実感しよう。

※家庭で大切にしたい子育てのポイントを解説したリーフレットです。
 ※市内の幼稚園・保育園などを通じて保護者の皆さんに配布しています。

目標6 学校マネジメント力を発揮できる体制の構築

グローバル化や情報化の進展などにより社会が大きく変化する中で、学校が直面する課題もまた複雑化・困難化しつつあります。校長・園長のリーダーシップのもと、子どもの姿や実態を捉え、保護者や地域の理解や協力を得ながら、学校組織をあげて課題解決に取り組む必要があります。

こうした時代において、学校には、先を見据えた視野とともに、学校内外を見渡す視野をもって、学校の経営資源や地域・郷土の人材・資源と教育内容をつなぎあわせながら、授業を含めた学校運営全体を工夫・改善していくことが求められます。

また、これまでの実践の成果が教師間で世代を超えて引き継がれるよう留意するとともに、これまでに学校において整備を進めてきたICT機器を活かした取組みなどにおいて、創意工夫や新たな発想を大切にしていく姿勢が必要です。

学校の中核となる人材の育成やリーダーが活躍できる環境の整備、教師が心身ともに充実して子どもと向きあうための取組みや人的・物的な支援を通じて、学校マネジメント力を発揮できる体制の構築を図ります。

(具体的な取組み)

取組み名	資料編参照	複数の目標に掲載
学校リーダーの育成	P55-28・29	
教職員サポートプランの実施	P55-30	
小中一貫・連携	P56-31	
小中学校の適正規模化・適正配置	P56-32	

目標7 学校環境の整備

学校は、子どもが集い、子ども同士や、教師などの大人との様々な触れあいを通じて人格が形成される場です。子どもが日々の学校生活を笑顔で過ごし、安心して学べるようにするために、子どもの安全な環境が確保されることが前提となります。

岐阜市の学校施設は、高度経済成長期に整備されており、耐用年数が順次到来しますので、老朽化対策を実施する必要があります。また、子どもは守られるべき対象にとどまらず、学校での学び全体を通じ、社会生活の中で自らの安全を確保することのできる力を育んでいくことも求められます。

家庭や地域とも連携を図りながら、子どもの安全を確保するため、学校環境の整備を図ります。

(具体的な取組み)

取組み名	資料編参照	複数の目標に掲載
学校施設管理	P56-33	
学校施設の老朽化対策	P56-34	
家庭・地域と連携した防災教育推進事業	P54-25	目標4
安全な通学路の確保	P56-35	
「危険から自分を守ろう」事業	P56-36	

目標8 放課後の居場所の確保と質の向上

ライフスタイルの多様化により、放課後の子どもの過ごし方も様々となる中で、子どもが安全で健やかに活動できる場の確保が求められています。

また、家庭の子育てを支援する役割を担うため、学校や地域との連携を図りながら、放課後の居場所の質の向上に努めていく必要があります。

放課後等を安全・安心に過ごすとともに、子どもが多様な体験・活動を行うことができるよう、地域の参画を得ながら、放課後の居場所の確保と質の向上を図ります。

(具体的な取組み)

取組み名	資料編参照	複数の目標に掲載
放課後チャイルドコミュニティ ・放課後子ども教室 ・放課後学びの部屋 ・放課後児童クラブ ・放課後の学びの充実プロジェクト	P57-37	